

# 世代間交流を意識した団地改修プラン

麻布高等学校

実施学年：1年  
生徒数：86人（2学級）

実施教科：生活総合（家庭科）  
実施時間数：9時間



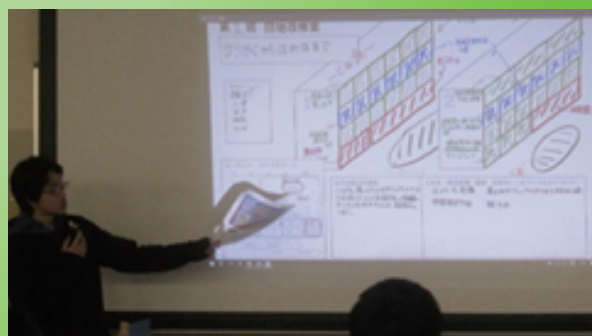
団地改修先行事例紹介



改修案のブレインストーミング



参考書籍



改修案発表会

## 学習のねらい

- 一生涯を通じて生活の土台となる住居について、そのライフステージごとにどのような住要求があるかを考えさせる。
- 現代の家族の形・地域との関わりの変化を鑑みて、住居とそれをとりまく状況に目を向ける。特に地域のコミュニティが希薄化している昨今の社会状況を踏まえて、住む場におけるコミュニティ形成の意義を多面的に考察させる。
- 団地改修のグループワークを参考にして、生徒個々の住む地域の今後のあり方について、考えさせる。

## 学習活動

- 1) 住居学概要：住居の機能、法律・制度に関する基礎知識を学ぶ。
- 2) 生活音の学習と、地域における騒音トラブルの発生要因を、物理的・心理的側面から考える。
- 3) ライフステージの移行とそれによる住要求の変遷について学ぶ。また、空き家の発生要因と課題点について学ぶ。
- 4) 身体寸法・動作寸法と、住居設備の基本的なサイズについて体感を踏まえながら学ぶ。  
◆課題として、平面図作成（団地一住戸の設計・リフォーム案）を課す。
- 5) 住宅供給の状況と、世帯人員減少の現状によって生じる生活上の問題について取り上げ、対策を考える。
- 6) グループ学習のための事前学習として、多世代が交流する団地の取り組み事例について紹介し、どのようなものがあるのかを学ぶ。
- 7) グループでの団地の改修計画を行う。「ブレインストーミングによるアイデア集約→対象ライフステージの設定→改修案の検討」の流れで行う。
- 8) グループごとに改修案の発表を行う。専門家からの講評をもらう。  
◆課題として地元地域でのコミュニティ形成に関する論文課題を課す。


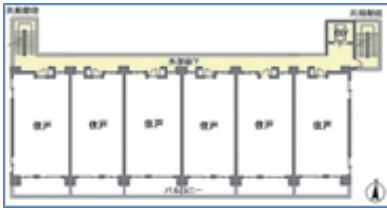
## 準備品

書籍（団地改修・コミュニティ形成に関連するもの）、団地改修案先行事例プリント、付箋、ライティングシート、ホワイトボードマーカー

## 実施場所

家庭科室、普通教室

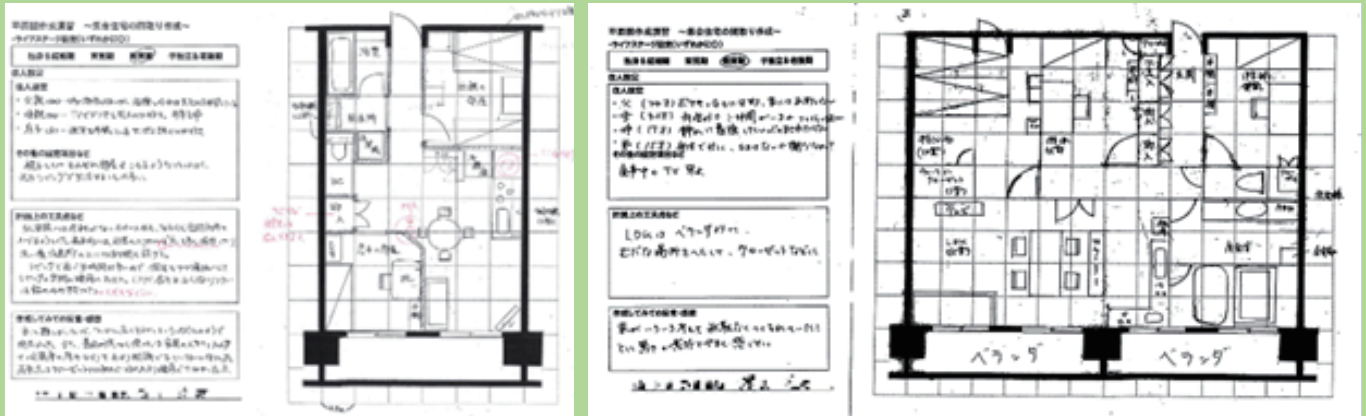
# 学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
教室 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住居の基礎知識</li> <li>・住まいの基本機能</li> <li>・健康で快適な住居とは</li> <li>・法律・制度について (建蔽率、容積率、用途地域)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・光環境については経験的に理解しているようだった。</li> <li>・空気環境、特に換気の重要性については、意識が低く、その重要性はよい気づきとなった。</li> <li>・用途地域区分の設定により、秩序の保たれた地域が得られることを理解した。</li> </ul>
教室 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●音環境について、騒音について</li> <li>・音の聞こえ方と生活音</li> <li>・「ピアノ騒音殺人事件」から見えてくること</li> </ul>	周波数と音圧の関係の動画 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の聞こえ方には個人差や、心理的要件によって変わってくることを知った。</li> </ul>
教室 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族周期と住居</li> <li>・ライフステージと住要求</li> <li>・10年後の磯野家はどうなる…?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生徒記述より</li> <li>Q1(10年後の磯野家)波平やフネが介護を必要とする可能性がある。カツオやワカメが配偶者を連れてくるかもしれない。その場合、部屋が不足。仮に夫婦と子連れてくるとすれば、不足。</li> <li>Q2(自分の周りについて)祖父は埼玉の一軒家3LDK2階建てに住んでいるが、1人で住むには主に2階の掃除などはされていない。階段が急で上に行くことがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「サザエさん」の磯野家の事例では、将来的な介護の必要性、子の結婚による家族人員増による部屋不足について考察していた。</li> <li>・自家(もしくは親族の家)のライフステージの住要求についてもよく考察していた。</li> </ul>
教室 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅設計演習</li> <li>・身体寸法、動作寸法</li> <li>・平面表示記号、家具記号</li> <li>・課題概要説明、下書き</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活のあらゆる場面で人体寸法・動作寸法用いていることを理解した。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住宅設計演習</li> <li>・片廊下型集合住宅一戸44.5㎡(約22畳)の条件で、間取り図作成</li> </ul>	イメージとした図 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた空間に必要な部屋を配置する難しさを感じながらも、非常に面白がって行っていた。</li> <li>・基本寸法にそった建具は正しいサイズで描けていたが、家具は、正しいサイズを把握するのが難しいようであった。</li> </ul>
教室 1時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住宅をめぐる動向</li> <li>・住宅供給の現状</li> <li>・世帯人員減少から生じる課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生徒記述より</li> <li>孤独死について: 高齢になると、子どものころや学生時代の知り合いと会うのが難しくなる(体面や友達への死去など)によって解決するためには、やはり近隣の人々での集会や祭りなどに多様に参加できるようにするべきだと思う。高齢者が自分からグループに入ることがあまりないので、やはり外側から(若い人でもなんでも)が声をかけて、輪に入るハードルを下げるべき。</li> <li>育児期の人脈形成難: 育児期は周囲の人に頼らなければ、夫婦は労働や家事などを行うのが難しい。僕は現在マンション住みだが、最近まで隣人の顔を知らなかった。これは周囲との人脈形成ができていないということだろう。これを解決するには、マンションの一階等に共同で利用できるスーパーを作るなど人の交流できる場を増やす必要があるだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住宅供給過剰の現状について理解した。</li> <li>・高齢期の孤独死など、自分とは異なるライフステージでの課題については、身の回りでの類似したケースについて言及する生徒もおり、身近な課題点としての認識ができた。</li> </ul>

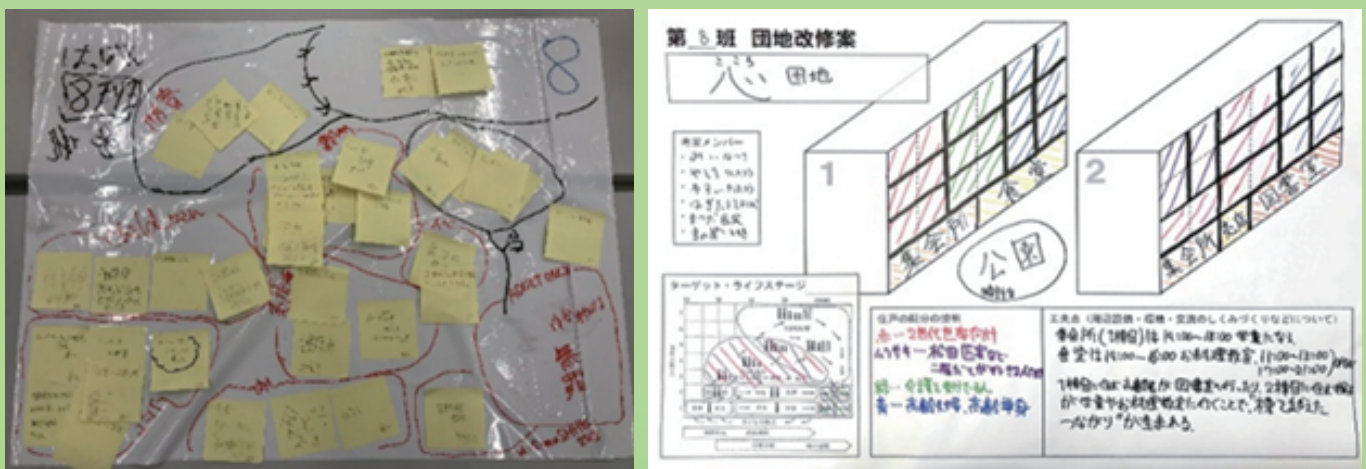
# 学習の流れ

場所・授業数	概要	活動の様子	反応
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<p>●先行事例から学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千里青山団地、港北ニュータウン、星の原団地、豊明団地、男山団地、取手井野団地、日の里団地、高島平団地、清滝団地、泉北ニュータウンにおける取り組みの紹介</li> <li>関連書籍から、アイデアを模索</li> </ul>	 <p>◆生徒記述より：花壇を皆でつくるのはいいと思った。老人が多いのか子育て世代が多いのかでやるべきことは変わってくるが、花壇くらいなら皆できると思う。何らかの世代に的をしばって住人を増やせば、色々取り組みもやりやすいと思うが、多世代交流も大切なので難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の事例から、次の学習に向けてのヒントを得ていた。</li> <li>良い点ばかりではなく、課題点などに言及する生徒も見られた。</li> </ul>
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<p>●グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブレインストーミング「多様なライフステージに対応した暮らしのあり方とは？」</li> <li>団地改修案検討</li> <li>発表ポスター作成</li> <li>改修案に対しての助言（教員及び、東京大学大学院准教授松田雄二先生で）</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>先行事例に倣って、各世代に起こり得る課題をうまくカバーするアイデアを出したり、活気を出すために、「インスタ映え」などのテーマを盛り込むなど、様々なアイデアを出していた。</li> <li>出されたアイデアを改修案にどのように取捨選択して改修案に入れ込んでいくか、熱心に議論していた。</li> </ul>
<p>家庭科室</p> <p>1 時間</p>	<p>●改修案発表・講評</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ターゲットライフステージ設定と改修案の概要について発表</li> <li>松田准教授を再度招いて、改修案についての質疑・講評をうける</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで出されたアイデアをうまく盛り込み、各班思い思いの改修案を提案できた。</li> <li>規格的な形ではあったが、それぞれの班に個性が出て、他班の斬新なアイデアに驚き姿も見られた。</li> <li>コスト面や実現性の点でよく考えられたアイデアもあった。</li> <li>専門家の講評は、アイデアのすばらしさとともに、現場目線での建築構造上の課題点などにも触れて頂いたため、単にアイデアにとどまることなく、実際にどういう形にしていけるのが望ましいか、という点を深く考えることができた。</li> </ul>
<p>課題</p>	<p>○自分の地域に置き換えて考察</p> <p>作文課題「私の地域でのミクストコミュニティ形成」</p>	<p>◆生徒記述より</p> <p>昼間外を歩いていると高齢者が非常に多いことが分かる。また、夫が亡くなったといった高齢の女性の話もよく耳にしている。このように高齢化と独居老人の増加がはやいスピードで進行していることを実感している。そのため、高齢者が訪れやすいイベントを図書館や文化会館などで数多く実施する他、回覧板のシステムを活用し、顔を誰かを毎日合わせる機会をつくる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のライフステージの移行とともに、現在の住まいや、地域の様子について、しっかりと今後を見通してえるきっかけとなった。</li> </ul>

団地の各住戸のリフォームプラン（左：住戸1戸を改修／右：住戸2戸続きを1つにして改修）



ブレインストーミングで出たアイデアと、それを踏まえた団地改修案



## 課題「私の地域でのミクストコミュニティ形成」より生徒作文

- ・ 昼間外を歩いていると高齢者が非常に多いことが分かる。また、夫が亡くなったといった高齢の女性の話もよく耳にしている。このように高齢化と独居老人の増加がはやいスピードで進行していることを実感している。そのため、高齢者が訪れやすいイベントを図書館や文化会館などで数多く実施する他、回覧板のシステムを活用し、顔を誰かを毎日合わせる機会をつくる必要がある。
- ・ 私が住んでいる地域は一軒家が立ち並ぶ住宅街であるので、小学校での同級生や妹・弟の同級生、またはお隣の家の方としか交流がほぼない。近くでお祭りなどのイベントはあっても、住宅街の範囲が広すぎて私的な交流は難しい。もし過疎化した場合、孤独死が多くなるだろうと考える。やはり住宅街であっても一定の範囲内いくつかはイベントなどができる公園などのスペースを作った方が日本の将来に役立つだろう。
- ・ 私の地域は数年前から再開発が進みマンションが建設されるなどして、より住みやすいベッドタウン化が進んでいる。その一方でマンション内での関わりがなかったり、自治会の存在があやふやだったり地域活性と呼ばれるものは成されていない。今後さらにマンションが増えていくと地域でのまとまりがなく、災害などに対応できなくなるのではないだろうか。私は夏頃に行われている地元で一番大きな祭を自治体や小中学校などの公共団体に関わらせることで地元でのつながりが生まれ、ベッドタウンでありながら、地域密着型の生活が送れるのではないかなと思う。
- ・ 私は現在タワーマンションに生活しているが、同じ階の隣人数家族の名前を知っている程度でマンション全体でのコミュニティはない。マンションが企画して旅行プランなどを考えることでコミュニティを生成できる。今後老人がマンションでの震災でエレベーターが止まった際に孤立してしまう可能性が高いので、マンション全体の共通認識として、老人を考える必要がある。また、低い階に老人宅をおくことも必要と考える。
- ・ 私の住む地域では、多世代交流の場としてコミュニティセンターが存在している。しかし、それは多世代交流にあまり機能していないように感じられる。なぜならば、そこでのイベントが「子ども対象の大運動会」「老人向けの茶道教室」等といったある世代を対象としたものが大多数だからだ。これを改善するためには、前世代が参加できる「昔遊びをしよう」「お話し会」といったものを増やす必要がある。様々な世代の子交流をイベントで増やすことが多世代交流につながる。

# 生徒の作品

## 課題「私の地域でのミクストコミュニティ形成」より生徒作文

- ・僕の地域は渋谷区なのだが、マンションに住んでいる以上、近所づきあいは存在せず、その地域にずっと続けたいと思うこともない。なぜなら、今いる場所よりも良い場所があったら、そこに引っ越しし、引っ越すときも近所づきあいなどの地域の結びつきがない以上、手軽に引っ越すことができちゃう。地域に対する愛着と地域内の結びつきがないと、地域活性化にはつながらないわけで、このようなことが、渋谷区に限らず、現代の日本の都市圏において起きているといえる。なので、昔のように近所づきあいのような地域内での結びつきを強くし、その地域にしかない魅力を生み出す取り組みをし、現代社会の地域社会を見直すきっかけを作るべきである。
- ・周りに空き家はないが、やはり高齢者が多い。また今行われている交流には「子ども会」というものがあり、講演で花火大会をしたり、ドッジボール大会をしていたりするが、中学生以上になると参加できなくなってしまう。課題解決にはまずその地域に人がたくさんいてさらにそれがいろいろな世代でなければ多世代交流はできない。なので、まずは図書館などの施設を増やし、いろいろな世代が集まってくるようにし、「子ども会」をさらに中学、高校生まで広げて交流を増やしていくべきである。
- ・私の通っていた小学校の裏には川があって、代々川原の階段に地域の高齢者達と共に花を植えていました。そのほかにも地域のボランティアの方々と共に川野ゴミ拾い、生き物の観察などを行っていましたが、近年親の反発によってこのような取り組みを行わなくなったと聞きました。これらの他にも最近うちの地域では、地域の交流を進めるような取組が次々と中止になっています。これらの再会を目指して地域交流の必要さから伝えていくべきだと感じました。
- ・私の住む商店街には自治会があるが、いわゆる自治会館というものはない。そのため連絡は回覧板で、あまり直接住民と関わる機会がないのが現状だ。だからまずは会館をつくるべきで、そこに交流の場をつくれればよいと思う。具体的には、図書室や喫茶店、オセロや囲碁の楽しめる場所である。そうすれば子供から大人、高齢者までどの世代も入り浸るきっかけができて、自然とコミュニケーションも発生するだろう。他にも、動物と触れ合えるスペースを作れば、多世代の人が集まって楽しむだろう。そんな「どの世代に対しても寛容な」集会所を作ればよいと思う。

# 先生の声

## 実施に当たり工夫した点 苦労した点

- 理論と実践を組み合わせ、またほぼ毎時間生徒意見を収集したため、全体を通して生徒が能動的に授業に取り組めるように授業カリキュラムを構成した。
- 仮想的ではあったが、規格的な団地を用いて、限られた時間で、設計案・コミュニティ形成のアイデア出しに絞って学習できるようにした。
- 当初の計画では、団地全体の改修案を検討した後に、各住戸の間取り案を課す予定であったが、ゲストティーチャーの日程の都合上順序が逆になってしまった。

## 児童・生徒の反応

- 様々な事例・参考文献などは用意したが、生活経験上、団地そのものへのイメージを抱きにくい生徒もおり、アイデアを出すのに苦労をした生徒も見られた。
- 団地改修案は、先行事例を用いることでイメージ想起がしやすかった一方で、その事例に固執して、オリジナリティあるアイデアを出しにくい班もあった。
- 大学の先生からも、コミュニティ形成の重要性についてお話頂いたことで、単に住宅そのものだけでなく、それをとりまく地域社会に目を向けることの大切さに気付いた。

## 教師の変化 (担当、担当外を含めて)

- 学区がバラバラで、遠方から通う生徒もいるため地域のコミュニティへの関心度は低いのではないかと不安ではあったが、今回の授業実践を通じて、自分の家の周りに目を向けることの大切さに気付いてもらうことができたので実践を行ってよかったと感じた。
- 本実践は家族関係、保育、福祉分野も包括した実践にしたいという試みで行った。時間の都合上、あまり深めることはできなかったが、他分野との関連づけの可能性は見えたと感じた。次年度以降、複数分野の連関を見据えた授業案を考えていきたい。
- 外部講師として招いた大学の先生から、「10代のこの時期に地域のコミュニティに目が行くことはなかなかできることではない」と評価していただき、生徒のポテンシャルの高さを再認識した。そうした点を引き出せるよう、さらに研鑽を積んでいこうと改めて感じた。